□はリンク　　※はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名　久 米　※

日付　平成 21年 3月 31日

評価機関名　特定非営利活動法人 ライフサポート

評価調査員　在宅介護経験15年

評価調査員　介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る（改善状況のコメントがあります！）※

1．評価結果の概要

講評

全体を通して（特に良いと思われる点など）

平成17年4月に1ユニットのグループホームが開設された。それからこのホームの変遷を他の外部評価機関の報告書を引用させて貰って辿ってみたい。初年度（H17年度）は利用者と職員でよく歌を歌い、家事も一緒にして和気藹々に暮らしていたが、職員間の連携がもう少し不足気味であった。次年度（H18年度）は職員の連携も良くなり、利用者に対するケアも向上し、色々な業務改善も進み、利用者と一緒に生活の質の向上が見られた。そして平成19年4月に2ユニット目が開設された。新しく、社協で活躍していたケアマネージャーの資格を持った現在の管理者が就任した。平成20年2月1ユニットの方の管理者が退職し、居宅介護支援センターで活躍していた今の管理者が就任した。突然の交代で引き継ぎもなく、グループホームという新しい職場だったので、混乱を招いたようだ。3年度目（H19年度）の評価では、管理者は未だグループホームでの経験は長くないが、出来るだけ家庭的な雰囲気で穏やかな暮しを利用者に送って貰う為、様々な配慮をし、努力している。職員の人間関係構築中で、2つのユニットの交流の必要性を提案していた。

今年度（H20年度）は、私達の評価機関で見せて貰った。どこのグループホームでも管理者等、主要な人材の交代はホームの雰囲気まで大きく変えてしまう事があるが、このホームでも、1つのユニットは管理者の突然の交代、そして2つ目のユニットの立ち上げの時期が重なって大変な1年だったと思う。1ユニットの方は、ようやく全体的に落ち着きを見せ、管理者もグループホームについて自分なりの考え方が確立出来た。「利用者さんが安心して暮らしている笑顔が出てきて、それが一番嬉しかった」と振り返ってくれた。そして職員も明るく笑顔でチームワークを作り、利用者の支援をしていた。2ユニットの方は、管理者も就任して丸2年近くの経験を積み重ね、自分流のグループホームの運営に自信を持って職員と一緒に、利用者が安心して暮らせるホームを作り上げている。

春になると、外に出られるようになり、両方のユニットから広々とした外に出て、利用者同士の交流も出来、ホーム全体として和気藹々で安心して暮らせる“第2の我が家”が出来上がるであろう。職員はそれぞれに個性はあるけれど、行くべき目標はしっかり共有しているので、お互いに良い所を出し合って「同じ一日なら、さあ今日も行こう。あ～楽しいな」と思える職場にしたい。そして利用者が「このホームで暮らすのが一番良い」と言い、何時でも“ただいま”とホームが自分達の楽しい居場所となっているなあと、利用者と職員の表情と行動から確信する事が出来た。

特に改善の余地があると思われる点

ホームは記録類の様式を工夫し、効率化を図りたいと考えている。とても良い事だと思うので、皆で相談しながら、是非検討して欲しい。加えて、利用者の言った事やした事、トピックス等をどんどん拾い上げて残していけたらもっと良い。それを見れば、その時々の様子が目に浮かぶホームで生きた人生史となり、利用者や家族にとって掛け替えのない宝物になるだろう。それが出来るのは、何時も傍にいる職員達だけだ。後から何度も読み返したくなる様な言動の記録が出来たら素晴らしい。

２．評価結果（詳細）

Ⅰ 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	

記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か
記述回答	1、 自主評価について･･･ 母体法人の運営するグループホームの共通理念であり、最初のホームを立ち上げた時に社長と当時の職員で決めた。玄関に掲示し、職員ミーティングの時に、この理念を日常のケアやサービスの業務の中でどのように具現化していくか話し合う時もあるそうだ。 2、 全体的に見て･･･ 「第二の我が家として生きる喜び、生きる意欲を高める施設作りを目指します。家庭的な生活環境の中で個人の尊厳と生活の質を保ちながら穏やかな日々を過ごせるよう支援します」がホーム運営理念である。管理者は「職員は楽しく仕事が出来る仲間であり、利用者に優しく対応出来る気持ちを持ち続け、楽しい思いで職場に来て、個性ある職員の良い所を出し合って貰う。職員を信じてケアに努めていきたい」という。

Ⅱ 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	

記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か
記述回答	1、 自主評価について･･･ 広い敷地の両側に両ユニットの建物が建っていて、中央に広い空地があり、駐車場と広場になっている。特に改善事項はない。 2、 全体的に見て･･･ 気持ちの良い季節には、リビングルームからウッドデッキのベランダに出る事が出来る。広い駐車場兼広場を挟んでお互いに行き来出来、交流が出来る。両ユニットで一緒に散歩に出掛けたり、合同で行事を開催して行き来している。「もう菜の花が咲き始めた。今年は暖かいんじゃなあ」ベランダ沿いの花壇を見たり、裏の畑へ出掛けたり、広い敷地をぐるぐると一周するだけでも、ほど良い気晴らしと運動になる。ホームのリビングルームの窓越しに日当りの良い場所がある。特等席に椅子を置いて日向ぼっこをしていると、身体も心もぽっかぽっかになってきた。

Ⅲ ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者･家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り･情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法･盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

Ⅲ ケアサービス（つづき）

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	評価	不能
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見･対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	

記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か
記述回答	1、 自主評価について･･･ ケアマネージメントも現状で問題ない。今のままもう少し続けていきながら、改善点を見出していけば良い。 2、 全体的に見て･･･ 家庭にいた人、病院に入院していた人が、孤独から開放され、9人での生活に不安から脱し、職員の暖かい気持ちの通いから、失っていた人間味を回復して、表情豊かになり、笑顔を見せる等、家族も以前関わっていた医師や介護職が吃驚するほど機能を取り戻している。食事を摂るようになった、少しずつでも歩けるようになった、表情によっても言葉であってもコミュニケーションが出来るようになった、帰宅願望のひどい人が落ち着いてきた、夜間せん妄があった人も薬を抜いてひん尿もなくなり、夜もぐっすり眠れるようになった等、数多い人間回復が出来た人が多い。何と言っても家族が喜んでくれ、それにも増して本人が元気になってくれた事が一番嬉しい。

Ⅳ 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	

記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。
記述回答	1、 自主評価について･･･ 特に改善する事項はないが、職員の認知症ケアについて知識を得て、経験を重ねて、質の向上をして行く為に外部研修に参加したり、ミーティングで情報交換していきたいと前向きに考えている。 2、 全体的に見て･･･ 運営推進会議は、町内会長･民生委員･愛育委員･家族が出席して、2ヶ月に1回は開催しており、地域の行事やボランティアとホームの結び付きが広くなってきている。このホームに入所して、前記した様に利用者の人間回復させてくれた実談話を家族から発表して貰うと、今まで以上に地域の人からの信頼を深め、ホームの存在価値も具体的に理解して貰え、ボランティアの人も出入りしてくれるようになるだろう。又地域の人々が認知症の相談に来るようになって、委員の皆さんも幅広い人材に出席して貰えるだろうし、会議の効果が連鎖的に広がっていくと思う。